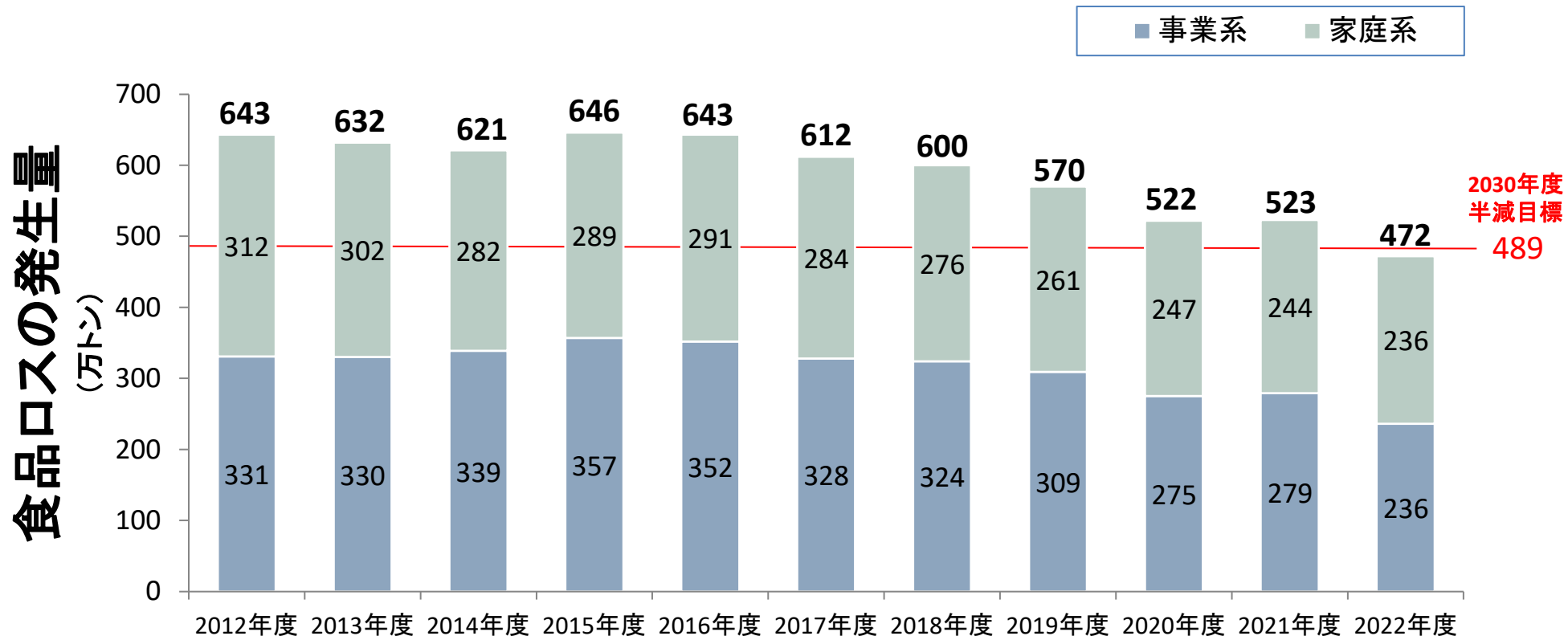


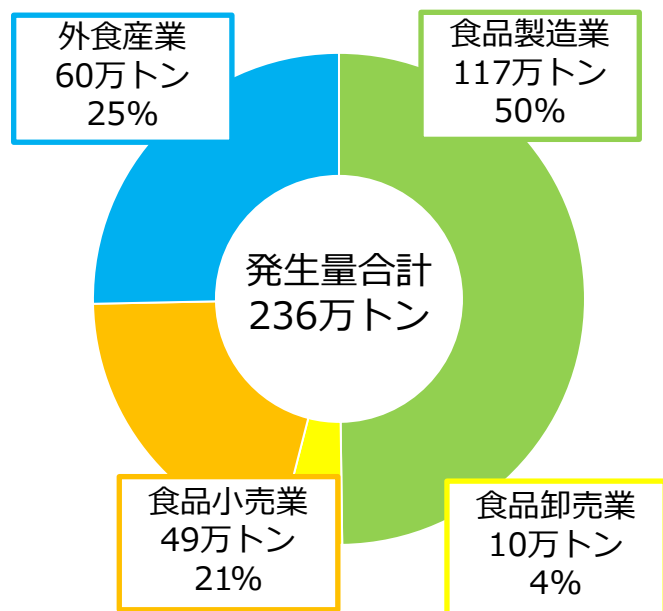
- ✓ 平成24年度より、食品ロスの発生量の詳細な推計を実施
- ✓ 令和4年度は約472万トンと、前年度から約51万トン（約9.8%）減少
- ✓ 内訳は、事業系が約43万トン（約15.4%）、家庭系が約8万トン（約3.3%）減少
- ✓ 発生量全体では、2030年度半減目標を達成したが、中長期的な推移の注視が必要



発生要因の内訳

- 我が国の**食品ロスは472万トン** ※農林水産省・環境省「令和4年度推計」
- 食品ロスのうち**事業系は236万トン**、**家庭系は236万トン**であり、食品ロス削減には、事業者、家庭双方の取組が必要。

事業系食品ロス（可食部）の業種別内訳



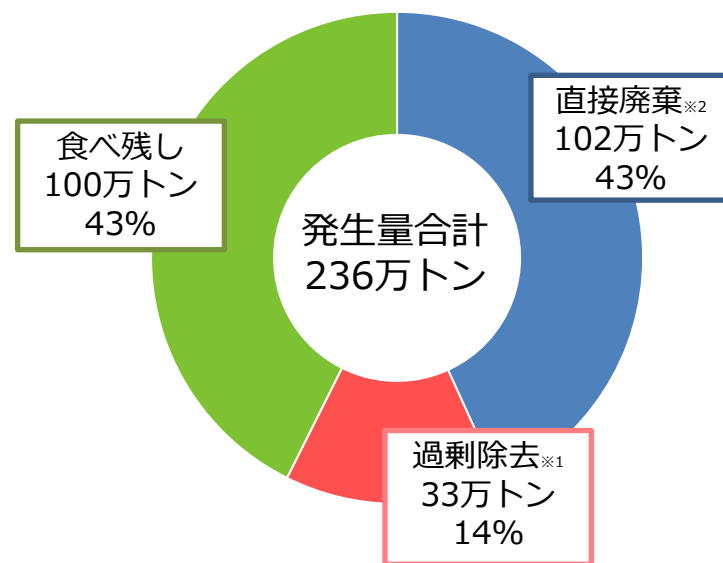
製造・卸・小売事業者

○製造・流通・調理の過程で発生する**規格外品**、**返品**、**売れ残り**などが食品ロスになる

外食事業者

○**作り過ぎ**、**食べ残り**などが食品ロスになる

家庭系食品ロスの内訳



※1：野菜の皮を厚くむき過ぎるなど、食べられる部分が捨てられている
※2：未開封の食品が食べずに捨てられている

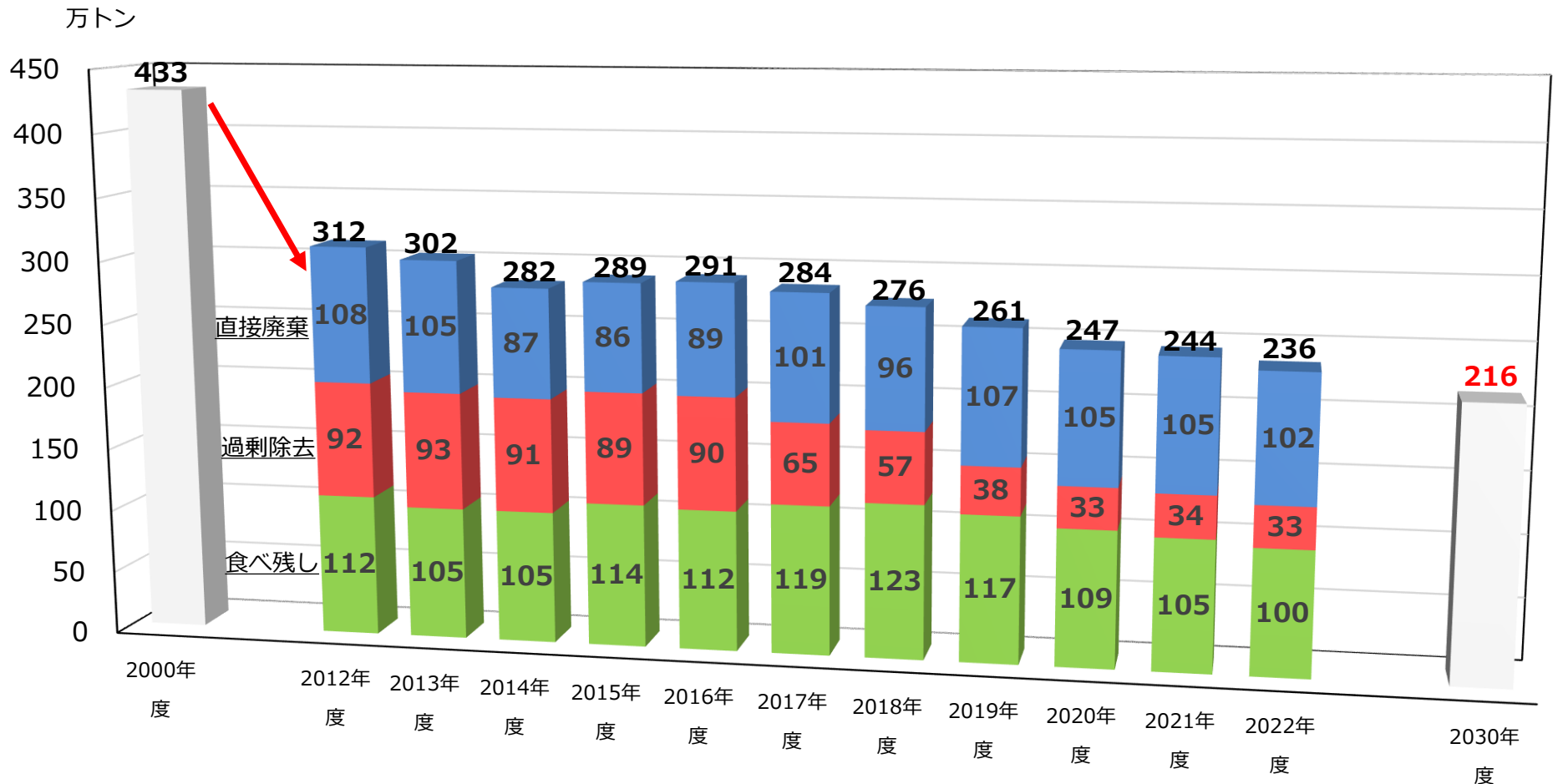
※端数処理により合計と内訳の計が一致しないことがあります。

家庭系食品ロス量の削減目標と推移

【目標】2000年度(433万トン)比で、2030年度までに半減させる(216万トン)

2012年度以降、全体では減少傾向

近年は全体として減少する中、特に直接廃棄、食べ残しは減少傾向



事業系食品ロス量の削減目標と推移

【目標】2000年度(547万トン)比で、2030年度までに半減させる(273万トン)

2012年度以降、全体では減少傾向

近年は全体として減少する中、特に食品小売業、外食産業は大きく減少

